

# 船穂地区



- 01 ふれあいバス停
- 02 大成交通バス停
- 03 スワン号バス停
- 04 レインボーバス停

4

どうぞうふどうみょうおうりゅうぞう  
銅造不動明王立像 1 軀

【指定年月日】 大正3年4月17日 【所在地】 結縁寺516(結縁寺)

この像は銅造の岩座の上に立つ像高47cmの鑄銅製の不動明王像です。

光背、岩座は後に補われたものですが、裳に刻まれた銘には「嘉元元年 癸卯九月十五日 願主権律師瀧尊」とあり、嘉元元年(1303)の造像であることがわかります。

両腕の太いがっしりとした構え、左足を開いてやや腰をひねる太造りの体軀、簡潔に表現された条帛や腰裳など、写実的で迫力をもった鎌倉時代の造形感覚がよく現れています。毎年9月28日に開帳されます。



7

もくぞうびしゃもんてん りょうわき じりゅうぞう  
木造毘沙門天及び両脇侍立像 3 軀

【指定年月日】 昭和29年3月31日 【所在地】 松崎396(多聞院)

中尊である毘沙門天像は、カヤ材の寄木造で、像高139cmです。

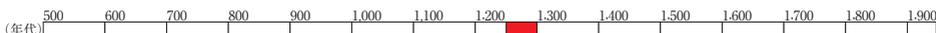
両脇侍はカヤ材の一木造りで、吉祥天像は像高101cm、善膩師童子像は像高96cm、3尊とも彫眼で、本来は着色されていたものと思われるが、現在は素地像です。

毘沙門天像の胎内には、正応2年(1289)6月に比丘尼法達と僧明観が平和を願い、谷田部重光と景光が助成したことが記されています。また、吉祥天胎内には、仏師賢光の墨書銘があり、三尊とも賢光一連の作と考えられています。

毘沙門天は仏教における四天王のうちの北方を守る神、多聞天ともいい、吉祥天は毘沙門天の妃、善膩師童子は毘沙門天の王子です。

毘沙門天は気迫ある像で、全体の厚手な木取り、頬を強く張った顔、太い首、いかり肩の姿など鎌倉時代の特徴である写実性がよく表現された作品になっており、吉祥天と善膩師童子を脇侍とする三尊形式の毘沙門天の典型例として貴重な作例です。

毎年7月最終土曜日に開帳されます。



市指定記念物(史跡)

44

武西の百庚申塚

【指定年月日】 平成11年3月25日 【所在地】 武西学園台三丁目128

百庚申は庚申信仰（中国の道教「三尸説」に基づく信仰で、人の体内にいる「三尸の虫」が庚申かのまきるの晩に、本人が眠った後に抜け出して、その人の悪行を天帝に告げ寿命を縮めてしまうというもの。）に基づくもので、より多く塔を建てることによって、より多くの功德を得たい人々の気持ちの表れだと思われます。

文久3年（1863）に造立されたもので、刻像塔10基、文字塔90基の計100基が、建立以来の原型を良くとどめています。



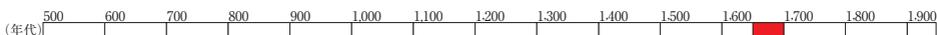
市指定記念物(史跡)

45

泉新田大木戸野馬堀遺跡

【指定年月日】 平成17年8月16日 【所在地】 草深1878-7、泉70-10

江戸時代、印西市から白井市にかけての一带は印西牧と呼ばれた放牧馬を飼育する牧場がありました。当時、牧は幕府直轄で管理され、牧の周辺には馬の逃亡や外部からの侵入を防ぐための土手や堀が築られました。指定地は印西牧の東側に位置し、延宝期（1673～1681）の新田開墾によって設けられたものです。長さ約200m、幅10～20mの大きさで、2条の土手と、土手の間に設けられた堀とで構成されています。野馬除けとともに牧と新田との境界を示していました。また、木下街道に接していたため、街道が横切る部分に2か所の大木戸が設けられていました。



市指定記念物(史跡)

47

掩体壕

【指定年月日】 平成28年9月23日 【所在地】 東の原三丁目108

大きさは幅約30m、高さ3mほどの馬蹄形の土手です。

印西牧の原駅周辺には、昭和16年から昭和20年にかけて逓信省航空局の印旛地方航空機乗員養成所（通称・印旛飛行場）の滑走路が広がり、昭和19年頃からは陸軍の軍用飛行場として使用されました。

掩体壕とは、飛行場に駐機する軍用機を上空の敵機から守るために作られた格納庫で、太平洋戦争末期、米軍による本土空襲が激しくなる中で、全国の軍用飛行場に構築されました。

